

大山町議会議長 米本隆記様

大山町議会議員 西本 憲人

令和6年大山町議会議員研修報告書

1	日時	令和6年7月29日(月)～30日(火) 2日間コース	
2	研修地	滋賀県 全国市町村国際文化研修所 JIAM	
3	研修内容	(内容)	(講師)
		◆第2回市町村長・議会議員特別セミナー	
		(1) 【講義】曖昧な弱者とその敵意 ～社会分断の新たな構造～	伊藤 昌亮
		(2) 【講義】ともに生きる 未来につなぐ みんなでつくる「健康しが2.0」	三日月 大造
		(3) 【講義】「労働供給制約社会」への処方箋	古屋 星斗
		(4) 【講義】こどもたちの生きる力を育む～「COLOMAGAプロジェクト」の活動の軌跡～	高橋 いずみ
4	研修結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1) 曖昧な弱者とその敵意 ～社会分断の新たな構造～</p> <p>弱者には「明白な弱者」と「曖昧な弱者」があるという話であった。</p> <p>講師先生の定義によると明白な弱者というのは、まったく当ての無い低所得者・高齢者・障害者・子ども・子育て世代・ひとり親世帯・障害児のいる世帯・遺族・難病患者・失業者(一時的)などである。</p> <p>一方で曖昧な弱者はSNSなどの社会運動によって変わることがある。</p> <p>例えばコロナ禍の飲食店など、最初はお客さんが来なくなり大変だと言われてSNSで飲食店支援などが行われていたが、時短協力金の影響でそれなりの金額が入ってくることによって今度は一転して、飲食店たたきが始まった。Twitter(X)やYahooでも自分方が辛いという人が一気にでてきていた。</p> <p>世の中に誰も楽な人がいなくて、誰を助けるのかということが分断を生んでしまう現象であった。</p> <p>本来は弱者として位置づけられていない人を「曖昧な弱者」と言っている。</p> <p>研修時期が東京都知事選挙の直後だったのもあり、石丸都知事候補のはなしがイントロダクションであった。</p> <p>石丸さんのTikTokで多くのいいねがつけられたものには共通点があり</p> <p>・老害批判</p>	

- ・マスメディア批判
- ・若者応援

のいずれかの要素が入っている。

老害批判と若者応援をセットで投稿していることが多く、若者たちは自分達のことをすごく応援してくれているということを感じていて、自分達も応援していくという現象になっていった。

若者という新しいタイプの弱者を支援者につけた例である。

(2) ともにいきる 未来につなぐ みんなでつくる「健康しが 2.0」

元衆議院議員で現在滋賀県知事 3 期目の三日月知事の特別講演は現場での公聴をこの立場の人がここまでやっていることに感銘した。

●基本姿勢

【対話、共感、共創】【徹底した現場主義】

- ・「こんにちは！三日月です」

知事が地域住民と直接対話する会を合計 87 回、参加人数は 850 人にのぼる。

先進的な取組や特色ある活動を行なっている自治会、NPO、事業所、学校、団体等に訪問している。

対話相手の状況に応じて、休日、夜間等を問わず実施する。

参加者全員が意見交換に参加できるよう、10 人程度とする。

以下実施要領

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/5353408.pdf>

- ・短期移住（知事の移住）

自分が住んでいる地域や、庁舎のまわりだけ行政ヒアリングが偏らないように、1～3 週間程度短期移住して実際にそこから庁舎に通って生活をしている。

知事が集落に住むとなかなか大変だが、あちらこちらにふるさとができたみたいでとてもいいと言われていた。

安倍政権と対立して、結果的その流れで知事になった。

新しい豊かさを提言して知事になったが、わかりにくいと言われることあり新しい豊かさとは＝健康 と置き換えて伝えていくことにした。

●近江鉄道の公有民営方式

近江鉄道 約 60km 33 の駅からなり 5 市 5 町にまたがっている。

		<p>人口減少→利用数の減少によって配線危機を迎えている近江鉄道に対して知事の基本姿勢は市町村でやりなさいということであるが、自治体によっては 13 駅あったり、町の中心に駅がある自治体など話がまとまらないため、県と市町で話をして、県が 1/2 出すということによって合意形成し、全ての市町村が合意形成し進んでいくらしい。</p> <p>お金がかかる部分（修繕や維持）を公有にすることによって民間負担が減り、日々の運営は民営することによって専門的に行う全国初の試み。</p> <p>住民意見が割れて、難しい問題であるが対話を重ねて、新しい形で解決することに合意形成まで取り付けて進んでいく姿勢が頼もしかった。</p> <p>会場が滋賀県ということもあり、滋賀県の若手議員の参加者からの質問も近江鉄道のことが飛び交っていた。意見がちがっていても誤魔化さず、丁寧に受け止め、話しきる姿勢が Q&A からもしっかりと見受けられた。実施に異なる意見の参加議員も優秀な知事ではあると言っていた。研修後の交流会にも顔を出し滋賀県の PR と近江鉄道の話切らなかったことをしっかりと話していた。</p>
4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(3)【講義】「労働供給制約社会」への処方箋</p> <p>人口動態とは確実な未来予測であり、今後起こる人口減少は高齢化社会は 1 次集団として日本、2 次集団としてイタリアやスペイン、3 次集団として中国などが同じ問題に直面していく。</p> <p>2040 年までの日本で唯一増えるのは 85 歳以上の方々のみ</p> <p>供給制約、座して待つと起こる生活への著しい悪生協</p> <p>1、ドライバー不足で荷物が届かない地域が発生 (2040 年のドライバー職・不足率予測 24.2%) 「荷物が届くかどうか」が、人が住める地域を決めるように。日本の 4 分の 1 の地域は事実上、居住不可能に</p> <p>2、介護現場で介護スタッフ不足が深刻化、欠員が常態化 (2040 年の介護サービス職・不足率予測 25.3%) 週 5 日訪問介護を受けていたが、毎週のように週に 1～2 日急な連絡で介護スタッフがこられない。高齢者地震や家族だけで対応せざるを得ず、生活が破綻。</p> <p>3、建設作業にじゅうじする施工管理者・オペレーターが慢性的に不足 (2040 年の建設職・不足率予測 22.0%) メンテナンスが必要な道路のうち、78%しか修繕できず、理法部の生活道路は穴だらけに。橋梁の崩落など事故も相次ぐ。結果、移動にかかる時間が増幅。</p>

- 4、医療スタッフが必要数に対して足りず
 (2040年の保健医療専門職・不足率予測 17.5%)
 病院設備はあるが医師・看護師をはじめとする医療スタッフがいない状態に。開いている病院も診察まで長蛇の行列。救急搬送先も確保できず、救急車の立ち往生が常態化。
- 5、事務職などホワイトカラーであっても、生活面で人手不足に起因したサービス水準低下、サービス消滅に直面
 これまで問題なく送っていた生活が破綻し、仕事どころではなくなってしまう。
- 6、現場の人手が逼迫し現役世代に余裕がなくなり、後進・若手を育てられない。後継者がいないため廃業に追い込まれる技術力のある中小企業や、若い人が職場におらずベテラン・シニアが大量の残業をして仕事をこなす大企業となる。

生活に手いっぱいとなり、仕事どころではなくなる

●いま打てる手：解決方策の提案

- ・徹底的な機械化・自動化
- ・まったなしの無駄改革
- ・シニア小さな活動
- ・ワーキッシュアクトという選択

(1人の人間がいろんな場面で活躍する社会へのパラダイムシフトが起こること)

未来を見据えて政策を考えていかないと消滅していく自治体になってしまう。

(4)【講義】こどもたちの生きる力を育む

～「COLOMAGA プロジェクト」の活動の軌跡～

2013年静岡県伊豆市でスタートした地域マガジン「KURURA」

※くるら→伊豆市の方言でおいでよという意味

地域有志のプロボノ。デザイナーや元中学校校長先生も関わっている。

高校生の6割が「将来は伊豆市に住みたくない」

地域の課題としては若年層の人口流出

地域への愛着が薄いことが大きな要因

	<p>デザインの力で地域を盛り上げたいということで始まった。</p> <p>↓</p> <p>小学校の地域学習でデザイナーと一緒に壁新聞を作成</p> <p>↓</p> <p>「せっかくいい情報があるのに、見れるのが先生と生徒だけではもったいない」</p> <p>↓</p> <p>冊子の形にできないか</p> <p>↓</p> <p>2013年 地域情報誌（フリーペーパー）を作ってみる （総合学習のデザインの授業）</p> <p>作成過程で、子どもたちが伊豆市の魅力や魅力的な大人たちの存在、達成感を 味わい</p> <p>数年後、参加した子どもたちに変化が訪れ始めた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域の魅力の再確認・ 地域で暮らす意識の向上 <p>現在 10年間の活動を続けて</p> <ol style="list-style-type: none">1、子ども編集部発足2、大学生コネクトチーム発足3、全国展開（他自治体で同じような取組開始、1都1府5県18地域）
--	---

(6)意見・感想

今回は、滋賀県知事の三日月さんの話が聞けたことがなによりの成果であった。今後の自分の活動や今の大山町に足りていないことが明確に感じ取れた。議会人として意見が合わない時も常に対話を心がけていきたいと強く思った。

講師の先生によっては、情報に偏りがあるように感じた。

ある面に関してはすごく詳しいが、他の角度から見ると無知で偏見がかなりある話も多く感じ取れた。

情報がたくさんある中で、講師の先生が話すから鵜呑みにするのではなく、自分で情報を整理して受け止めることが必要だと再認識した。

今回の研修はすぐに動けることや根本の考え方を正さないと実行できないことまでかなり幅広の研修であった。残念なのは、どこの研修でも見かける風景だが、居眠りしている議員の姿でお金と時間を使い何をしにきているのか理解ができないうところであった。